

社会科

高校一年「現代社会」野外学習

— 実践記録 —

川田 基生

1. はじめに

1986年11月18日(火)に実施した高校1年社会科「現代社会」野外学習について若干の報告をします。

本校社会科の野外学習についての理念と方法は『社会科教育の道標』(本校社会科共著, 第一法規, 1983)を参照して下さい。

最近10年の野外学習の実践記録は, 本校紀要第31集に筆者がまとめました。客観的な事柄, 教師の視点からの記録の一端がそこにあります。

ここでは, 生徒の視点から, 野外学習の内外表裏を明らかにしたい。

2. 道程

8時30分	9時40分
学校	ゆたか障害者
名古屋市千種区	労働福祉センター
不老町	南区泉楽通4丁目
(ゆたか作業所内で)	

概略説明	縫製作業場	軽作業場
3学級合同	学級別に	バインダー組立て
	カヤフキン製造	
	幼児遊戯服製造	
空ビン・空カン	交流会	
再資源化作業場	自治会代表と生徒の	質疑応答 合唱

11時10分	12時00分	13時00分
新美南吉の家		
半田出身の	半田市平井町	
童話作家・資料室見学, 昼食, 付近の散歩		
13時15分	15時00分	16時00分
山田紡績株式会社		
半田市乙川吉野町		
(木綿工場内で)		

概略説明	原綿倉庫	繰綿工程	
		ワタの種子除去	
紡糸工程	巻糸工程	検査工程	織布工程
検査工程	質疑応答		

3. ゆたか障害者労働福祉センター

経営主体は社会福祉法人ゆたか福祉会。精神薄弱者授産施設, 身体障害者通所授産施設, 障害者診療所が併設されている。種類のちがう障害者の人々の助けあいの作業という点がこの一つの特徴。

入所定員30名, 平均年齢37才。障害者の学校卒業後の進路保障, 自立を目ざす生産型の作業所設置を求め全国各地での共同作業所づくり運動を背景とし, 名古屋市職員労働組合, 愛知県障害者の生活と権利を守る連絡協議会, ゆたか福祉会による共同の運動の結果, 1983年に設立された。国, 県, 市の援助, さらに日本自転車振興会の補助金も加わり, 実験的, 試行的なとりくみとして発足。

資源の再利用, ゴミの減量と障害者の働く場づくりがむすびついた点で全国初の実験施設。鉄筋コンクリート造3階建, 明るく清潔で作業工程にも様々な安全への配慮がなされている。敷地2650㎡。

4. 新美南吉の家(養子先)

半田出身の童話作家。「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」などは小学校国語の教科書に多く採用されている。

半田市岩滑小学校の大石源三先生によれば, 今回の目的地は, 「ごんぎつね」の舞台。養子先の家から田んぼの中を300mほど歩くと矢勝川に至る。

「雨があがると, ごんは, ほっとして穴からはい出ました。空はからっと晴れていて, もずの声がきんきんひびいていました。ごんは, 村の小川のつつみまで出てきました。」(新美南吉「ごんぎつね」冒頭部分)

雨ふりの日の穴を養子先の家と考え, 小川までの田畑を昼食・散策地とした。

市の指定地域で農村風景が保たれている。

5. 山田紡績

社会科の授業内容の中で, 「産業革命」のしめる重みは強調するまでもない。そして, 日本資本主義の発達史上の紡績資本の役割は述べるまでもない大きさを持っている。

今回の目的地である知多産地の綿織物の生産状況は,

安藤嘉治編「知多織物百年の歩み」によると以下のようになる。

	全国	知多	比率
綿織物(合計)	224674万㎡	45632万㎡	20.3%
包帯・ガーゼ	15906万㎡	9132万㎡	57.4%
小巾白木綿	13672万㎡	6013万㎡	44.0%
ポップリン	45010万㎡	15635万㎡	34.7%
モスリン	30847万㎡	9003万㎡	29.2%

現在、綿織物生産の2割を占める知多産地であるが成長期は、大正末期から昭和初期。黄金時代は昭和12年前後という。

バウカー著の「ランカシアの歩んだ道」によれば、

	イギリス	日本	綿布輸出货量 (単位百万平方ヤード)
1920年(大9)	4760	827	
1924年(大13)	4444	1009	
1928年(昭3)	3867	1419	
1932年(昭7)	2197	2032	
1936年(昭11)	1917	2710	

知多産地の黄金時代はランカシアの凋落期であり、日本綿業がイギリスを越える時期に重なる。

当時の日本綿業の対英優位は、「日本繊維産業史」によると(1反当り、24ペンス=1円)

	原綿代	賃金	その他	合計
日本	63.5	9.9	22.5	95.9
英国	63.5	27.9	25.0	116.4

賃金の差ということになるだろうか。そして現在、「通商白書」によれば

賃金指数比較 (1975年日本=100)

	日本	韓国	香港	台湾
紡績	100.0	25.1	57.5	35.0
織布	100.0	23.6	59.2	32.9
縫製	100.0	11.3	48.5	41.6

困難は賃金格差のみにとどまらない。日本経済新聞社「会社情報」1986年夏号、繊維業界の項には、

「化合織、天然繊維とも市況低迷は当面の間、続く見込みだ。円高による原材料の値下がり生産コストは低下しているが、輸出の停滞に伴い各社とも国内販売を強化、値下げ競争激化で収益力は低下。綿紡績は輸入品から国内市場を守ろうと操業を維持、3月以降はパキスタンからの輸入が激減するほど市況は悪い。合織、綿紡とも、し烈な生き残り競争に突入している。」とあり、商工会議所関係者、繊維組合、工場の人の話による半田地域の工場の実情も上記記述と異なる徴候はなかった。今回の見学地、山田紡績も利潤率は低位にありながら、操業水準を維持、さらに巨額の設備投資を1987年早々に予定している、とのことであった。

山田紡績は、社主に確かめる機会が持てなかったが、昭和初期にまでさかのぼることのできる企業と推測さ

れる。前掲、安藤編「知多織物百年の歩み」によると、当時の知多半島東岸北部地区(半田周辺)では、大多数が家内工業的形態をとっていたが、その中で、乙川(おっかわ)地区のみで大資本が形成、とあり、

織布工場上位10社

1位	中七木綿	岡田	790台
2位	安藤梅吉	岡田	557台
3位	山田佐一	乙川	510台
4位	山田保造	乙川	382台
5位	雀印織布	横須賀	380台

3位あるいは4位の山田工場は現在の乙川の山田紡績の系統である可能性が強い。とするなら、昭和初期の日本紡績資本の面影を残す典型的な工場ということになる。

6. 事前指導

- (1) 講演 i 鈴木清覚 ゆたか障害者福祉センター
所長 「地域福祉活動の現状」
ii 榊原 寛 名古屋商工会議所
「半田の綿工業」

来校していただき、授業時間内に、鈴木氏からは障害者観の問題を、榊原氏からは原綿から布になるまでの工程の話を中心に講演していただいた。

(2) 学習課題

安藤嘉治編「知多織物百年の歩み」から15ページ分ほどを抜粋し、プリントを作成。次のような課題を与え、小型の原稿用紙10枚にまとめて提出させた。

◎知多で木綿が作られるようになったのはいつごろからか。◎開国は知多の綿関係の産業にどんな影響を与えたか。◎明治時代、日本の綿業は社会の発展にどんな役割をはたしたか。◎知多の織布業界における労働条件を説明し、感想を述べなさい。◎日本の綿業はどのようにして海外市場をひろげて行ったか。◎世界の紡績工場といわれた英国ランカシア綿業の没落の原因は? ◎戦前の乙川地区と他の地区のちがいはどんなことか。◎知多地区は全国の何%の生産をしているか。◎韓国で衣料品をつくると、どれくらい安くなるか。◎今年、景気の悪いのはどんな産業分野か。(電算機家電、自動車、食品、化学、建設、陸運などの分類で)

7. バス内説明

A17(生徒作文) “バスの中での原先生の説明がとてもよかった。……一番前で先生のすぐうしろだった。……のぞいてみると、先生は20枚ほどの教科書の半分くらいの紙にびっしりと調べた物をもって……みんなにしゃべりかけるように……”

8. 生徒作文

今回引用する生徒作文は、野外学習の2日後に、『野外学習——一番印象に残ったことを、詳しくいきいきと……』の題で生徒に書させたものである。A、B、Cはクラス、数字は出席番号を示している。

A33 一番印象に残っていることは、ゆたか作業所へいざ入るとき、一人の障害者の人が、一人のお姉さんにつきそわれて、私達が中へ入っていくのを見ていました。見た感じでもかなり障害の重い人ようだったので、ぶつかったりしてはいけない…と思いながらその2人の前を通ったとき、その障害者の人が、にっこり笑ってゆっくりだけれど“おはよう”って言いました。本当なら見学させてもらう私達から声をかけるのが当然のことなかもしれないのに、私は何の障害ももっていない私達なのになんとなく恥ずかしいような気持ちがしました。

A44 野外学習で一番印象に残ったことは、やっぱり、ゆたか作業所でした。南区ですごく近いはずなのに、見たこともなく、なんだか遠い所にいるような気分でした。最初バスを降りて集まったら、障害者の人たちが、体操をしていました。ある女の子がこちらに手をふっていました。“あーみんな私達を歓迎してくれているんだなあ。”と思いました。中に入れてみて、思ったよりとてもきれいだと思いました。ミシンの作業の所へ入って、とても感心しました。みんな、とても手が器用で、きれいにぬっていました。男の人でもていねいに服をぬっていて、私も見習わなければと思いました。でもそれより一番は、みんなの顔です。みんなすごく美しい顔をしていました。

C44 一番印象に残って目に焼きついているのは空カンをストックのようにまとめてつぶしている所で、空カンをその機械に流し入れるのを手がつかえない人が足でやっているところです。その人が、ごはんを足で食べると聞いた時にはおどろきました。私達をごくあたりまえのように手で食べているけれど世の中には、その人のように足ではしをもち口のところまでもっていくということを知っていたけれども、なまなましく今回感じました。また指導者の方々のきびしく見守るかんじの姿勢に尊敬しました。

C40 その中でも一番印象に残ったのは、手の不自由な人が、足を使って箱からあき缶をとり出す作業

をしていたことです。その中の女の子はくつ下をはいて作業していましたが、そのちょっと汚れたくつ下が今でも思い出されます。こういうのを見て、もしけがとかしたらあぶないのに、と思いましたがそういう差別がこの人達にとっては、してほしくないことなんだ、ということがよくわかりました。

B16 障害者達が働いている所を見せて、もらった時なにかこう、熱いものこみあげてきたのを覚えていて。ほとんどの、障害者達がこの人達は本当に障害をもっている人達なのかと思うほど、熱心に働いていた。ほんの少しの人達は、すわりこんでいたり、なにをするのでもなくボーとしていた人達もいた。だが、足だけで作業をしている人達を見た時は、もっともっと深い感動を覚えた。近くでみると、その真けんな目つきを見てみると、この人達もまた僕達となんら変わらない一人の人間だという事を、しみじみと感じた。

A41 それに、とてもやさしいのです。私たちがトイレに行こうとしたら、こんでいたので、2階のトイレを案内してくれたのです。私たちは、5人くらいで、トイレは、2人しか入れなかったのです。もちろん私たちは、順番に入ろうと思っていましたが、ゆたか作業所の人、考えてくれて、他のトイレを案内してくれました。もうそのときは、とてもうれしかったです。もしも私があんな状態だったら、生きていこうとは思わないかもしれません。だから、あそこにいる人たちが、がんばって働いているのだから、私も勉強や運動をがんばりたいと思いました。

A8 ゆたか作業所のある部屋を見学しているときに、車いすにのった女性が同じ障害仲間によって押されて来ました。その部屋へ入りたいのですがA組の生徒が通路をふさいでしまっていました。たまたま僕が一番外側にいて気がついて道を開けるように合図したけど気付いてくれない！で、押していた人が僕に女性を中につれていくよう頼まれて部屋の中まで押して行ってあげました。はずかしかったけれども、「いいことをしたのかなあ」と思えて体が熱くなりました。

A31 私はやっぱり、ゆたか作業所が印象に残りました。中でも一番、今でも心に残っているのは、保育園のスモッグを作っている作業所でのことです。私は隅の方にいたのですが、出がけにアイロンをかけていた女の人が、「いーなあみんな。おい、お前も高校へ行け、あんな服着て。」と言ったのです。すると女の人が、はしゃいで、「えーいやだよわたしい。」と言い、その後、「高校かあ……。」と

つぶやいたのです。私はその言葉を聞いた時、胸がずきっとしました。(ああ、この人は高校へ行っていないんだな。中学はちゃんとでているのだろうか。私達がのうのうと見学に来て、見せ物みたいにされていると傷ついてはいないだろうか。…)と思うと、いたたまれませんでした。そしてそれから、見て回った時出会った障害者さん達と目があわせられなくて、どうしよう、どうしようと思っていました。

B20 僕が野外学習にいった一番印象に残ったのは、ゆたか作業所での最後の自治会での話です。その中で、地方から名古屋に出てきて、一生懸命に働いていたけど、病気で倒れて会社をクビになり、家にいなければならなかったときに、一番つらかったという話がありましたが、それを聞いたとき、この人はりっぱだなと思えました。

B12 でもその中でも一番心に残っていることは、最後の合唱で高い声を出していたおばさんの言葉。「この作業所に来てから楽しかったことは……(中略)。悲しかったこと? 悲しかったことは…、ありません。」あまりよくわからないけど、すごくインパクトのある言葉だった。

B29 1カ月一生懸命働いても、少ない人では4・5千円ぐらいしかもらえないなんて悲しいことだなと思ったけど、質問の時に「どんなことが楽しいですか。」と聞くと「働けること。」といった言葉が耳からはなれなくて、お金はたくさんあったほうがいけれど、その値うちはみんな同じなんだなと改めて感じた。

C10 ゆたか作業所を後にした時作業所の窓ごしに手を振ってくれた女の子の顔が何ともほほえましく「また来てね」といっているようだ。

C33 いちばん印象に残ったことは、『新美南吉の養子先の家』でした。べつに、建っていた家が、いいというわけではなくて、あの、すごくよい天気だったことです。ほんとによい天気、雲ひとつなくて、きれいな青色の空でした。朝や、『ゆたか作業所』についた時に見た空は、まったく違うもののような、気がしました。高い建物がほとんどなくて、稲を刈り終えた田んぼが、やけに広く見えた気がしました。その田んぼの中で、みんなでお弁当を食べたわけだけど、ごろっと寝ころんで、ぼーっと空を見ていたら、すごい気持ちいいだろうと思いました。

今回の野外学習は、いつも私が見ていない部分、見過ごしてしまう「いや」な部分を見たような気がしたので、これほどまでも空がきれいに見えたのかもしれないね……。でも、ふだんの生活で

は見られないものを見て考えさせられることの多かった一日でした。

C13 印象に残ったのは、山田紡績の工場にあった機械が巧みに動いていたことであつた。

何万本の糸があつまって布が出来てくるところを目の前にして少しおどろいた。機械の上にとろろそうじ機のようなものがありちらばっている綿をすいこむためのものだと思ったが、その割にはそこらじゅうにたくさん綿がちらばっていたり、ひどい所は制服にそれがついてしまった。あと音がすごかったので、工場を出たあと耳なりがして頭がいたかった。近ごろは繊維業は不況においこまれているそうで、山田紡績という大きな会社でも工場にあつてもとまっている機械があり、円高というものがすごく影響し、もっと小さな会社はもっと苦しく倒産していくのだなと思った。あと工場で気がついたのは機械ばかりで、人の数があまりいなかったことで、ずいぶん合理化がすすんでいるのだなと思った。

A11 ゆたか作業はとても楽しく、考えさせられることも多かったが、自分は山田紡績の事を書きたいと思う。でも自分に一番印象に残ったのは、日本の綿産業の歴史や、その現状の事なのではない。本来この野外学習の目的とは恐らく無縁のことだろうと思う。それは、自分と年代の、しかも女の子が、そこで働きながら、さらに学校へ通っている事実を、具体的に知ってしまったことである。今までに、定時制の高校へ、働きながら通っているという人の話は何度か聞いていた。でもそれを聞いた時には、たいして感動もしなかった。それがこの会社に来て、それらの話を聞いていて、自分は一体、何をやっているのか? という気持ちになった。

9. おわりに

野外学習を実施して、感想文を読んでもみると、野外学習には、

「高校かあ…。」のつぶやき
 ちょっと汚れたくつ下
 「働ける。」といった言葉

に見られる

個別性がある

「他の存在のしかたもあり得る」という形での理解
 自分の在り方を問いかけてくる

要素があり、普遍的、必然的、よそ事のように思われがちな通常の授業を補う意味を見出すことができる。